

会報

陽だまり

第22・23号
合併
平成28年12月



きららクラブ山形

一般社団法人
山形県老人クラブ連合会

〒990-0021 山形市小白川町2-3-31 県総合社会福祉センター2階
tel (023)622-5601 fax (023)622-5606
ホームページ <http://www.kirara-yamagata.or.jp>
E-mail yrouren@poplar.ocn.ne.jp

第51回山形県老人福祉大会

8月31日、河北町・総合交流センター「サハトベに花」において、県内市町村老人クラブの役員、老人福祉関係者等800名が参加し、第51回山形県老人福祉大会が開催されました。

式典では、柿崎繁雄県老連会長が「健康寿命をのばし、住み慣れた地域で暮らせる社会の構築が求められており、そのためには会員一人ひとりが自己実現できるよう今後も仲間づくりをすすめ多彩な楽しい活動に取り組もう」と式辞を述べ、田宮栄佐美河北町長の歓迎の言葉に続き、ご臨席の来賓を代表して吉村美栄子県知事をはじめ、鈴木憲和衆議院議員、県議会議長代理矢吹栄修厚生環境常任委員長、河北町議会議長代理松田收作副議長よりご祝辞を賜りました。

また、引き続き老人クラブの育成指導に貢献し、社会福祉活動が顕著な方々に対して県知事感謝状と県老連会長表彰並びに感謝状が伝達され、あわせて老人クラブ会員加入促進キャンペーン運動達成と全老連活動賞受賞の紹介も合わせて行われました。

そして、受賞者を代表して河北町の井上忠作さんが「なお、一層の精進を重ね、今後も人のつながりや地域の絆を深め、県民から、尊敬されるよう、微力ながら引き続き、尽力いたす決意であります。」とあいさつされました。

大会宣言では、小林達夫県老連副会長が、宣言案を朗読し提案を行い、満場の大きな拍手をもって採択されました。



I 県知事感謝状

- ①老人クラブの指導育成に特に貢献のあった者…33名
- ②社会福祉(地域)活動が特に顕著な老人クラブ…4団体
- ③老人福祉施設等の介護職員として15年以上業務に精励し、他の範と認められる者…42名

II 県老連会長表彰

- ①老人クラブ育成指導功労…86名
- ②優良老人クラブ…12団体

「地域文化を紡ぐまちづくり」

式典前には、開催地河北町の歴史と文化を「継ぐ」「育む」「奏でる」の3部構成で「地域文化を紡ぐまちづくり」をタイトルに紹介しました。

「継ぐ」では、ようこそ「雛とべに花の里」へをテーマに河北町の良いところを凝縮した「山形どまんなか探訪」で制作した映像を鑑賞し、特にこの大会後に開催される「谷地どんが祭り」には、再度訪れてくださるようPRしました。

「育む」では、高齢者の知恵は地域文化を育むと題し、地域文化継承者として河北町老人クラブ連合会が町教育委員会と連携し長年取り組んでいる町内4地区(西里・北谷地・溝延・中央)より、地区小学校児童との交流を通して地域伝統文化や民俗風習を継承している5つの活動を披露しました。

「奏でる」では、地域に根づく郷土芸能を将来に残し、地域を笑顔で明るく元気にしようと50年前に結成した「谷地大黒舞保存会(河北民謡連合会)」の皆さんから「谷地大黒舞」を演じていただき、参加者の皆さんと県内老人クラブ会員の方々にも健康長寿で福がどっと舞い込むようにと口上もありました。



谷地大黒舞



北谷地地区「ミニ門松づくり」

また、おもてなしの記念品づくりでは、古くから草鞋や草履を地場産業として栄え、その技術を継承し現在ではスリッパ生産日本一を誇っていることから、高齢者が賢く健康で暮らせることを祈念し「賢健ぞうり」と名付け、きららクラブ河北(町老連)女性部と健康づくり事業のいきいき桜の会そして町社会福祉協議会職員が共同で丹精込めて約900個を製作し、参加者全員に贈呈しました。



賢健ぞうり作り



県内ではじめての企画

参加体験型交通安全教育機材一堂に展示紹介

高齢者の交通事故が多発し、特に死亡事故はここ数年全死者の6割を占め、今後も増加することが予想されています。

このことから、自らが注意喚起し、意識を高めることが重要であり、老人クラブの組織を活用した活動の取り組みが評価されています。

老人クラブの会員加入増強と併せて、関係する機関団体が所有している参加体験型交通安全教育機器材を一堂に展示紹介し、新たな情報を発信し上手の活用することで事故のない安全な地域をつくることをめざして実施し、大変好評でした。



歩行環境シュミレータ「わたりジョーズ君」体験



展示機材名	所有機関団体(問合せ電話)
①夜光反射材効果体験「反射視認暗室テント」	山形県交通安全対策協議会 (023)630-2196
②歩行者教育システム	
③交通安全ゆとり号	山形県警察本部交通企画課 (023)626-0110
④歩行環境シュミレータ「わたりジョーズ君」	
⑤リフレクボックス(反射材効果体験箱)	日本自動車連盟山形支部 (023)625-4520

第10回公式ワナゲ全国交流大会



72チームが参加！熱気と激戦

去る10月7日、山形市ヒルズサンピア山形体育館を会場に、県内外から72チームが出場し開催されました。

会場は、各地域から予選大会を勝ち抜き代表に選ばれた選手と応援・大会運営関係者が約400人集まり熱気あふれる雰囲気の中、激戦を繰り広げました。

この大会は、公式ワナゲ普及にあわせてワナゲ王国山形を全国に発信することをねらいに平成18年10月に山市において第1回大会を開催、当時の参加は31チーム、選手91名と現在の約半数以下で開催されました。

その後、公式ワナゲ愛好者が増えたことにより参加を希望するチームは年々増え、各地域で練習交流試合や市町村老連におけるワナゲ大会が開催されるなど公式ワナゲの関心と人気は各地域に広がり、「輪で話と和を」をモットーに普及活動が行われています。

また、山形県老人福祉施設協議会が主催するワナゲ大会においては、これまでの独自の大会競技ルールで実施されていましたが、今年度から公式ワナゲのルールに改正し実施され、上位に入賞した施設は本大会へ選手派遣されたことから過去最多の9チームでした。

今大会の選手の平均年齢は77.3歳で、90歳以上の方が4名、最高齢者は100歳でした。

大会運営にあたっては、県老人福祉施設協議会をはじめ、山形市老人クラブ連合会女性委員会、公式ワナゲ公認指導審判員、普及員有資格者と東海大学山形高等学校福祉コースの生徒37名にもご協力をいただきました。

競技は、1チーム3人で構成し、1人が9本の輪を投げる単独投輪ルールで、1人3ゲームを行いその得点を集計する個人戦と団体戦では1チームの得点を合計して得点の高い上位24チームが決勝トーナメントに進出し、団体優勝は、長井市草岡Aチームが栄冠に輝き長井市が返り咲きを果たしました。

個人戦、団体戦とも非常に競技力が高く、今大会のパーフェクトは予選で14名14回、決勝トーナメントでは17名22回と各コートからはパーフェクトが出るたびに歓声が沸き、白熱した戦いの中にもふれあいがあり、楽しんでプレーしていました。

今大会の成績は、日本ワナゲ協会「全国ランキング大会」に連動し申請することにしており、今回も上位入賞への期待が高まっています。

成績結果

★団体部門

賞区分	チーム名	市町村
第1位	草岡A	長井市
第2位	緑ヶ丘一丁目	酒田市
第3位	勸進代寿会	長井市
第3位	板井川千歳会	鶴岡市榎引

★グループ入賞

グループ	チーム名	市町村	得点
第1	勸進代寿会	長井市	1410
第2	千葉生浜公民館	千葉市	1483
第3	草岡A	長井市	1080
第4	小見睦会	大江町	1085
第5	四ツ谷むつみ会	山市	1143
第6	橋山A	山形市	1182
第7	清水町しあわせ会	長井市	880
第8	三沢B	米沢市	812
第9	田鶴町鶴友クラブ	天童市	1148
第10	飯塚交友会	山形市	1200
第11	緑ヶ丘一丁目	酒田市	1242
第12	東沢B	山形市	1225



取材を受ける最高齢者
武田ふづのさん(100歳)サンシャイン大森

★個人部門

賞区分	選手名	チーム名	市町村	得点(※)
第1位	伊藤一弥	小見睦会	大江町	660
第2位	田畝詔一	勸進代寿会	長井市	660
第3位	佐竹絹子	四ツ谷むつみ会	山市	602
第4位	坂口興一	千葉生浜公民館	千葉市	600
第5位	孫田惣兵衛	草岡A	長井市	600

(※)得点は、3ゲーム合計得点、同点の場合の順位は年齢、性別をもって決定する。

★パーフェクト賞(14名)

選手名	チーム名	市町村
伊藤一弥	小見睦会	大江町
田畝詔一	勸進代寿会	長井市
佐竹絹子	四ツ谷むつみ会	山市
坂口興一	千葉生浜公民館	千葉市
孫田惣兵衛	草岡A	長井市
遠藤三郎	千葉生浜公民館	千葉市
鈴木光隆	金谷恵生会A	村山市
丹野藤夫	飯塚交友会	山形市
山口時男	三本松三友会	山市
青柳信昭	田鶴町鶴友クラブ	天童市
富塚修男	東沢A	山形市
結城久二郎	上貫津福寿睦会	天童市
桜井シゲ子	行川長生会B	村山市
遠藤鶴二	上貫津福寿睦会	天童市

★老人福祉施設部門(ふれあい賞)

賞区分	チーム名	市町村
団体 1位	養護老人ホーム明鏡荘	朝日町

賞区分	選手名	チーム名	市町村	得点(※)
個人 第1位	高野時男	養護老人ホーム明鏡荘	朝日町	180
個人 第2位	菅野吉男	特別養護老人ホームおばなざわ	尾花沢市	158
個人 第3位	芳賀啓	山形敬寿園	山形市	152

平成28年度市町村老人クラブ連合会会長 並びに女性委員合同研修会

県老連会長講話



11月1・2日、山形市黒沢温泉「悠湯の郷ゆさ」において、市町村老人クラブ連合会会長並びに女性委員合同研修会が行われ33市町村58名が参加しました。

1日目の研修では、県健康長寿推進課高橋課長補佐より「地域包括ケアシステムの現状」として行政説明をしていただき、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすには、地域全体がお互いに連携する「地域包括ケアシステム構築」の実現に向け、老人クラブは介護予防事業や集いの場となるサロン実践などの支援に期待がありました。

また、本研修会初めての試みとなる県老連会長講話は、柿崎会長が所属する大蔵村肘折「雪華クラブ」の会員増強運動の取り組みについてお話しいただき、肘折の高齢者90%が老人クラブに加入しているが、会員の自然減少はどうしても避けられないが今年65歳になった方全員が加入し仲間となっただき若い世代の方が担っていく環境づくりを心掛けているそうです。

県老連が愛称「きららクラブ山形」とイメージを一新したことをきっかけに村老連も「りんどうクラブ大蔵」と愛称を付けたことをご報告いただきました。

続いて県老連高橋常務理事より「老人クラブ2万人増強運動2年次の分析と課題」と題して基調説明を行い、運動の取り組みは、各市町村老連がそれぞれの目標を持ち地域の特性を生かしながら少しずつ会員加入増強を図っている中で、今こそ総力を結集して残りの期間を達成に向けてともに歩んでいかなければならないことを強調しました。

活動事例発表では、会員増強に成果があった米沢市老連須貝会長に地区老連オリジナルの歌や踊りを取り入れたユニークな増強運動の取り組み事例と県老連女性委員会亀谷委員長から10月中旬に全老連で開催された「老人クラブ女性リーダーセミナー」の参加報告をしていただきました。

平成30年には県老連女性委員会設立20周年を迎えることから、全市町村老連の女性委員会設置の実現などを目標に女性がいきいきと輝ける活動の推進をめざし提案として発表いただきました。

2日目は、各市町村老連から会員増強運動について取り組みの報告をテーマに会員増強の成果のあった事例やそのポイントについて10班に分かれ討議し、それぞれから発表いただき、情報を共有しました。

また、県健康福祉企画課薬務・感染対策室村山専門員より「ジェネリック医薬品の知識と学習」と題してご講義をいただき、ジェネリック医薬品の安全性や品質改良され服用しやすくなったこと、また日ごろ疑問に思う質問などを通じ学習しました。

参加された会長・女性委員はそれぞれ相互の連携を深め、仲間の絆を深め充実した2日間の研修となりました。



グループ討議

市町村老人クラブ連合会事務担当者会議

11月25日、県総合社会福祉センターにおいて28市町村老連の事務担当者が出席し開催しました。

会議では、山形市の特別養護老人ホームながまち荘の副主任生活相談員手塚敬一郎氏より「地域での活躍と介護予防」と題し、老人ホームや地域包括支援センターが行う介護予防を目的とした地域とのかかわりについてご講義いただきました。

また、市町村老連と県老連が連携して取り組む「会員2万人増強運動」について、高橋常務理事より過日行われた市町村老連会長・女性委員合同研修会のグループ討議の集計を踏まえ、各市町村老連が取り組む会員増強運動の現状や今後の展開について説明をしました。

協議では、県老連事業として会員が市町村老連に加入をしている利点・価値が一目でわかるようなパンフレット等の作成の要望があり、また地域のサロン事業の参加者が増え老人クラブ会員が減少した地域について、会員がサロン事業の参加に流れ出しているため老人クラブ活動の魅力を引き出し会員を取り戻すためにはどうしたらよいかなど具体的な質問に対し、他市町村担当者から「高齢者が住み慣れた地域で元気に生活を継続するという総合的な目標は同じ、サロンも老人クラブも共に支え合うような環境づくりを進めていくことが大切」という意見があり、行政や社協とより深いつながりを持つことも話し合わせ、それぞれの地域に見合った会員増強に努めていこうと確認しました。



第45回全国老人クラブ大会

「人が輝く元気とやまの創造」をめざす富山に集い、共に学ぶ

11月9・10日、富山県富山市において、第45回全国老人クラブ大会が開催され、本県からは7名が参加しました。

1日目の活動交流部会では、「地域に健康づくり・介護予防活動の輪を広げよう!」、「未設置地区にクラブをつくろう!」、「演じる活動(舞台発表)」の3部会が設けられ、熱心に討議されました。

2日目は、「健康寿命の延伸を目指して」と題して、富山市長森雅志氏の講演に続き、富山県立南砺平高等学校郷土芸能等による「越中五箇山民謡」が披露されました。

また、式典では、全国老人クラブ連合会会長表彰4区分137名、116団体に授与されました。

本県の受章者は、次のとおりです。



全老連齋藤会長式辞

育成指導功労

高山 五郎(県老連監事・新庄市老連会長)

高橋美津雄(真室川町老連会長)

優良老人クラブ

近江あけほの会(山辺町)

優良市町村連合会

酒田市老人クラブ連合会松山支部

最上町瀬見長命クラブ 全老連活動賞を受賞

今年度は、健康づくり活動部門に最上町瀬見長命クラブを推薦し決定いたしました。

当クラブは、瀬見温泉を有し共同浴場を活用して閉じこもり防止をはかるために顔なじみや出会いの場を拡げ、多彩な健康づくりメニューを取り入れ、自分に合ったものから参加し他の種目にも挑戦し、仲間を募り集い活動意欲を高めていることが評価されました。

特に、ワナゲは会員が共通して関心が高く、あらゆる大会出場に向けて積極的にルールを覚え、技術向上をめざして練習を継続し回数も多くなっています。



第9回公式ワナゲ全国交流大会出場選手

誠にありがとうございます。今後のご活躍をご祈念申し上げます。
来年度は、京都府で10月18・19日に開催されます。

平成28年度東北ブロック リーダー研修会

7月14・15日、秋田県鹿角市において、平成28年度東北ブロックリーダー研修会が開催され、本県から8名が参加しました。

青森と岩手との県境にある会場まで移動時間は約5時間、参加者は疲れも見せずに到着後すぐに研修に励みました。

1日目の研修は全老連齋藤常務理事より「老人クラブ組織の発展に向けて～全国運動、行動提案等」として全老連が取り組む「会員100万人増強運動」などについて基調説明。そのあと64室に分かれ「新規クラブをどう立ち上げるか」をテーマにグループ討議が行われました。

2日目は、会員増強運動の取り組みについて青森、岩手、秋田より事例発表が行われ、出会いの縁から絆を結ぶ会員募集方法などユニークな事例などの発表がありました。

研修の最後に秋田県堀井副知事のご講演を拝聴し2日間の研修が終わりました。

次期開催は平成29年7月13・14日に福島県郡山市磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」で開催されます。

なお、平成30年度は山形県が開催地となります。



熊本地震災害救援拠金に 190万円友愛の心被災地 に届ける

今年4月中旬に熊本県熊本地方を震源とする地震が発生し、県内各地で家屋の倒壊や土砂災害等で多くの方が死傷されるなどの甚大な被害をもたらしました。

この事態に対し、本県としても全国及び熊本県、九州ブロック各県老連と連携して県内老人クラブの組織を通して高齢者の友愛の心を被災地に届ける「災害救援拠金」を募ったところ、多くの単位クラブと会員の方々より心温まる救援金をお寄せいただきました。

本会に開設した口座には、14老連から1,908,952円が寄せられ、11月4日に熊本県老人クラブ連合会に送金しました。

被害に遭われました被災者の皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く復興され、平常な生活が営まれますよう心からお祈り申し上げます。

平成28年度事業計画・収支予算を報告 平成27年度事業報告・収支決算を承認

6月23日、山形市・県総合社会福祉センター4階「大会議室」において、県老連を構成する市町村老連の代表者が参加し通常総会を開催いたしました。

柿崎会長に代わり亀谷副会長があいさつを行い、来賓の県健康福祉部長あいさつでは、高橋浩也健康長寿推進課長が代読しました。

3月24日の第12回理事会において承認されました「平成28年度事業計画並びに収支予算」と本総会に至るまでの会議開催状況の経過について、高橋常務理事より報告を行いました。

その後、議長に東根市の横尾量助会長を選出し議事に入り、議長より議事録署名人に中山町の松田禎一郎会長と大石田町の小松武会長兩名を指名しました。

議事では、平成27年度事業報告と収支会計決算、そして公益目的支出計画実施報告書の承認事項について事務局より説明し工藤健一監事の監査報告を経て審議され、異議なく可決されました。

次に、平成28年度の県老連会費(案)と収支補正予算(案)について審議され原案通り承認されました。

また、市町村老連会長の異動に伴い矢萩結一理事(村山市)と高橋石雄理事(遊佐町)の辞任を受けて、欠員となることから補充選任では、各地区から予め推薦のあった、吉田勘右工門氏(村山市)と五十嵐只志氏(三川町)を選出し満場一致で承認され、直ちに就任されました。

平成28年度予算書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①会費収入	7,077,100	7,077,100	0
②補助金等収入	5,706,000	5,506,000	200,000
③委託費収入	1,460,000	1,449,000	11,000
④拠出金収入	90,000	90,000	0
⑤事業負担金収入	360,000	200,000	160,000
⑥事業関連収入	2,240,000	2,200,000	40,000
⑦雑収入	400,000	420,000	△20,000
⑧繰入金収入	8,000,000	7,600,000	400,000
事業活動収入計	25,333,100	24,542,100	791,000
2. 事業活動支出			
①事業費支出	20,260,000	19,534,000	726,000
②管理費支出	5,158,000	5,318,000	△160,000
③予備費	327,100	191,127	135,973
事業活動支出計	25,745,100	25,043,127	701,973
事業活動費収支差額	△412,000	△501,027	89,027
当期収支差額	△412,000	△501,027	89,027
前期繰越収支差額	412,000	501,027	△89,027
次期繰越収支差額	0	0	0

平成27年度正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①受取会費	7,077,100	7,441,000	△363,900
②事業収益	3,511,926	5,249,622	△1,737,696
③受取補助金等	5,506,000	6,743,000	△1,237,000
④受取負担金	205,400	223,600	△18,200
⑤雑収益	856,889	1,535,535	△678,646
経常収益計	17,157,315	21,192,757	△4,035,442
(2) 経常費用			
①事業費	18,430,032	22,065,293	△3,635,261
②管理費	5,379,887	5,688,841	△308,954
経常費用計	23,809,919	27,754,134	△3,944,215
当期経常増減額	△6,652,604	△6,561,377	△91,227
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
過年度減価償却費	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△6,652,604	△6,561,377	△91,227
一般正味財産期首残額	56,732,641	63,294,018	△6,561,377
一般正味財産期末残額	50,080,037	56,732,641	△6,652,604
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残額高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	50,080,037	56,732,641	△6,652,604



「のばそう!健康寿命、担おう!地域づくりも」

昨年7月から組織の愛称を「きららクラブ山形」として、より地域に根つき親しまれるようこれまで取り組んできました仲間づくりと健康づくりや介護予防を基本に今後多様化する社会活動に対応するため、高齢者相互のネットワークを主体的に担う組織基盤強化策としての「会員2万人増強」は、平成30年度を目標としており、達成に向け折り返しとなる今年度はその成果が評価をまとめていくことにしています。

そこで、メインテーマに沿って、健康寿命をのばし、自立した生活、生きがいのある生活の実現をめざし、仲間や地域の高齢者とともに継続的な健康活動に取り組み、また、他世代や関係機関と連携し、安全・安心の住みよい地域づくりをめざし、元気高齢者の知識・経験、活力を生かす場づくりと機会づくりを広げていくことにしています。

【事業の重点目標】

1. 組織活動の強化に向けた取り組みの推進	(1)年代・性別バランスのとれた会員加入に向けた呼びかけと勧誘 (2)会員加入促進成功事例の発掘と提供 (3)地域や関係団体と連携した活動の推進
2. 高齢者を地域で支える仕組みづくりに資する運動の展開	(1)健康活動 (2)友愛活動 (3)奉仕活動
3. 制度・施策、高齢者に関わる課題等の学習と実践	(1)老人クラブの組織強化・活動への理解促進と予算の確保 (2)社会保障制度の学習と提言・提案活動
4. 会員の安全対策と連帯意識の高揚	(1)老人クラブ傷害保険(総合型・活動型)、賠償責任保険の普及拡大 (2)老人クラブ会員章の着用と普及拡大

みずほ教育福祉財団助成事業

「老人クラブ介護予防・健康づくり支援事業」

老人クラブの活性化に向け、地域の老人クラブが取り組む介護予防と健康づくり活動の推進を目的として、健康づくり推進員取得者を活用し、昨年度に引き続き県内2カ所で事業を実施しています。

☆鶴岡市老人クラブ連合会鶴岡支部「鶴岡きらら大学」

鶴岡市内の高齢者を対象に、地域における介護予防・健康づくりリーダー養成と活動の関り方について学習する大学を開催しています。

大学では、昨年度みずほ助成事業を実施した高島町老連今田会長の実践事例講話や栄養学から学ぶ高齢者の食生活、心の健康と認知症の理解などの学習とロコモ予防・健康体操や公式ワナゲを通じた交流などの実習科目を実施し会員増強の促進を図っています。



高島町老連会長の事例講話

☆大石田町老人クラブ連合会「きらら大石田！元気塾」

大石田町では、健康づくりと若手会員加入促進を目的に、健康な体の学習としてひざ痛・腰痛にならない体づくりや口腔ケア、ジェネリック医薬品工場見学会など、また全身を使ってノルディックウォーキング体験、町の特産品を使った栄養調理実習など仲間と楽しみながら実技を楽しむ講座を開催しました。



ジェネリック医薬品水無錠剤試飲

県老連女性委員会常任委員会の活動報告「知事室訪問」



6月17日、県庁において県老連女性委員会常任委員と山形市老連女性委員会役員が合同で吉村美栄子後援会のご協力のもと知事室を訪問し吉村県知事と談話を楽しむひと時を過ごしました。

県内の老人クラブ会員の6割が女性会員であり、各市町村老連には女性委員会(部会)が設置され、それぞれの地域で女性ならではの気配りと優しさで地域の子どもと昔遊びや地域食文化伝承をとおして世代交流事業を行って

いることや、高齢者の孤立・閉じこもり防止と高齢消費者被害防止活動として地域サロンの実施や施設慰問をする友愛活動を紹介しました。

また、平成26年度に全老連から発刊され県内2名の体験談が掲載された「泣いて、笑って、昭和の子育て」おばあちゃんの育児体験記を贈呈し、吉村知事は、「高齢者の知恵や知識は何にも代えがたい特別な財産であり、育児体験記は若いママさんたちに教えてあげたいとっても素敵な教科書で、ぜひ拝読しお勉強させていただきます。」と笑顔で受け取っていただきました。



高齢消費者被害防止キャンペーン「見守りサポーター養成研修」

高齢者を狙う特殊詐欺や悪質商法は、高齢者の生活に近づき知らぬ間に犯罪に遭遇している場合があります。大きな社会問題となっています。

今年本県では、全老連が実施している高齢消費者被害防止キャンペーンのモデル指定を受け、県内3カ所において「見守りサポーター養成研修」を行いました。

長井市老人クラブ連合会

7月7日、女性委員と若手委員を中心に38名が受講、市民相談センターをはじめ長井警察署の講話や消費生活者の会の寸劇で情報を取得しました。

特に「クーリングオフ」について、申請の流れや注意事項などを学習し見守り活動に備えていくことにしました。



山形市老人クラブ連合会

7月12日、女性委員と若手委員34名が受講、市消費生活センターから新たな詐欺の手口や被害状況、センターが発行する情報チラシの活用法を学習したあと「だまされやすさ心理チェック」など実施、また女性委員の1人が活動する「おとめ座」の寸劇では、「嫁と姑が孫娘に扮した詐欺に遭遇」という設定で共感しながらも身構える大切さを学習しました。



新庄市老人クラブ連合会

9月15日、28名が受講、市消費生活相談員と新庄警察署から被害状況について講話を聴き、つい最近までスーパーの空き店舗などを利用した健康器具・健康食品の販売など行う業者について、合法でありながらも悪質で消費者被害の相談も多いことを学習、また、電話応答訓練として生活相談員が「還付金詐欺」を設定に実施、うまい話に乗らない秘訣を学習しました。



編集後記

「レガシー」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。

さて、レガシーとはどういう意味でしょうか。

レガシー (Legacy) とは「遺産・先人から引き継がれたもの」という意味で、今年、新庄まつりがユネスコ無形文化遺産に登録されたことはまさに先人から引き継がれた文化のレガシーとなりました。

小池東京都知事はこのレガシーを「これから後世に残すもの」として表現していることが多く、後世に必要な必要でないのかを都民に訴え模索しています。

必要とされ残すにふさわしいものとして「老人クラブ活動」は地域のレガシーと自負していいものだと私は考えます。

先人から受け継ぎ、残していくために今、仲間を増やしこれまで培った知識と経験を生かして地域づくりに貢献していきましょう (歩)